

富山県の産学官連携等への支援

富山県厚生部くすり政策課 課長 清原宏真

1. はじめに

本県の薬業は、300年を超える歴史と伝統を有し、本県発展の礎を築くとともに、「富山のくすり」として全国に広く浸透した「とやまブランド」の一つとなっている。今日では、伝統に加え、優れた技術力、高いGMPへのコンプライアンス、関連産業の充実度などから、医薬品製造に関する確固たる信頼を得て、配置家庭薬だけでなく、医療用医薬品、一般用医薬品などの製造が盛んである。直近のデータである平成23年の医薬品生産金額は5,754億円、全国第3位であり、全国でトップクラスの生産拠点を形成するとともに、本県経済を牽引する重要な役割を果たしている。

また、地元富山大学には、今年創立120年となる薬学部や我が国で唯一の伝統医薬学の研究所である和漢医薬学総合研究所をはじめ医学部、理学部、工学部などがあり、これまで高い資質を有する人材の養成とともに、医学・薬学研究の拠点として地元企業の発展に大きく貢献してきた。

富山県では、これら地力を最大限に活かし、「くすりの富山」の更なる発展のため、今後とも、製造・品質管理技術や製剤開発力の向上等に資する取組みを産学界とともに進めてきた。

2. 主な取組み

まずは、平成12年に本県における産学官連携による創薬を推進する組織として発足したフォーラム富山「創薬」では、産学官の研究紹介や交流の促進をテーマを毎回変えて継続的に実施するとともに、富山オリジナルブランド医薬品の「パナワン」及び「越撰（エッセン）」の開発に取り組み、現在販売されている。

また、産官が出資して富山大学に設置した2つの寄附講座がある。ひとつは、平成16年に和漢医薬学総合研究所に設置された寄附講座「和漢薬製剤開発分野」であり、ここでは産学官の一層の連携強化を図るとともに、新しいオリジナルブランド医薬品等の開発支援などを進めている。もうひとつは、平成19年に大学院医学薬学研究部（医学）に設置された寄附講座「免疫バイオ・創薬探索研究講座」であり、産学官の連携によるバイオテクノロジーを活用した免疫疾患の予防、診断、治療及び創薬研究を進めている。いずれも現在3期目であり、これまでの研究を踏まえた更なる成果が期待されている。

また、国際展開では、スイス・バーゼルとの交流を産学官で継続して行っており、最近では平成24年9月にバーゼルにおいて富山バーゼルシンポジウムが開催され、富山大学、富山県立大学、業界、県薬事研究所等の研究者が講演等を行った。

最近の興味深い取組みとしては、一昨年度から富山県薬業連合会が取組んでいる製剤開発に関する意見交換会があり、県はこの事業を支援している。この意見交換会の目的は、より魅力ある製剤を開発するため、医薬品関連会社を含む県内企業の開発者が、調剤を行っている薬剤師から現場のニーズを直に聞くことにより競争力のある製剤開発に繋がることであり、毎回双方率直な意見交換されている。

る。この会には、研究・実地に経験豊富な富山大学薬学部の先生方がコーディネーターとして参加し、適切なアドバイスを行っていることもあり、企業側開発者、薬剤師側双方から好評と聞いている。

また、薬業界の更なる飛躍のためには優秀な人材確保が重要な課題であり、これについて、就職希望者への企業セミナーや、薬業界が望む学生実習を県薬事研究所で実施するなど、未来の薬業界を担う人材養成、確保について産学官で協力して行っている。

今年度は、本県薬業のさらなる活性化のため、平成 21 年度に取りまとめられた「富山県医薬品産業活性化懇話会」報告書を踏まえ、最近の薬業界における環境変化、傾向などに対応した新たな戦略を検討することとなっている。

3. 結語

今後更に、産学官がそれぞれ持つ特長を効果的に連携・協力して創薬活動を推進することにより、本県を代表する新しい医薬品などが誕生することを大いに期待している。また、本フォーラムのようなアカデミアと産業界が直接意見交換できる場を最大限活用して、双方より密接な関係を築き、既成概念に縛られない新しいモノが富山から生まれることを願っている。

これからも、富山県としては、世界に羽ばたく「元気とやま」の創造を目指して本県薬業が一層発展するよう、産学と協力して事業等の推進を行っていききたい。

氏名 清原 宏眞 (きよはら こうしん)

略歴

昭和 45 年 3 月 25 日 三重県伊賀市 (旧上野市) 生まれ

平成 8 年 3 月 名古屋市立大学薬学研究科博士前期課程修了

平成 8 年 4 月 厚生省薬務局経済課薬価係 係員 (のち、主査)

平成 11 年 4 月 科学技術庁科学技術振興局国際課 国際協力第二係長

平成 13 年 1 月 文部科学省国際統括官付 企画係長

平成 13 年 10 月 厚生労働省医薬安全局監視指導・麻薬対策課 薬事監視第一係長

平成 14 年 1 月 厚生労働省医薬安全局審査管理課 再審査・再評価係長

平成 15 年 6 月 外務省在インドネシア日本国大使館経済班 二等書記官 (のち、一等書記官)

平成 18 年 7 月 厚生労働省健康局生活衛生課 課長補佐

平成 19 年 7 月 厚生労働省医薬食品局副作用被害救済対策室 室長補佐

平成 21 年 4 月 厚生労働省保険局医療課 課長補佐

平成 24 年 4 月 富山県厚生部くすり政策課振興開発班 班長

平成 25 年 4 月から現職